

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-111647

(43)Date of publication of application : 15.04.2003

(51)Int.CI.

A47D 13/02

(21)Application number : 2001-306460

(71)Applicant : APRICA KASSAI INC

(22)Date of filing : 02.10.2001

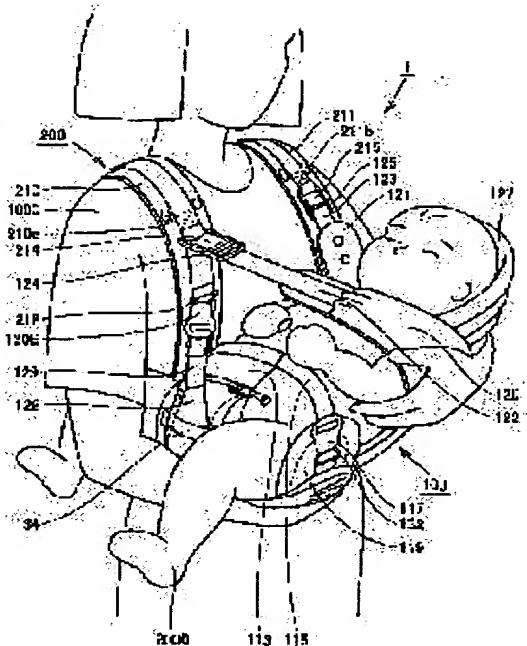
(72)Inventor : KASAI KENZO
ONISHI ICHIRO

(54) BABY-SITTING BELT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a baby-sitting belt with a structure by which a new-born baby whose neck and waist are not steady can be held horizontally, vertically in the face to face or vertically in the back to face.

SOLUTION: Between a user wearing member 200 and a baby holding member 100, the first connecting means is installed which enables to perform the horizontally holding state by means of the baby holding member 100 at the front of a mother. The second connecting means is installed which enables to perform the front face vertically holding state where the baby is raised up by means of the baby holding member 100 at the face to the mother and the third connecting means which enables to perform the vertically holding state where the baby is raised up by means of the baby holding member 100 at the back toward the mother.



Copyright (C) 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-111647

(P2003-111647A)

(43)公開日 平成15年4月15日 (2003. 4. 15)

(51)Int.Cl.⁷

A 47 D 13/02

識別記号

F I

テ-マコ-ト^{*}(参考)

A 47 D 13/02

審査請求 未請求 請求項の数32 O L (全 17 頁)

(21)出願番号

特願2001-306460(P2001-306460)

(22)出願日

平成13年10月2日(2001. 10. 2)

(71)出願人 390006231

アップリカ▲葛▼西株式会社

大阪府大阪市中央区島之内1丁目13-13

(72)発明者 ▲葛▼西 健造

大阪市中央区東心斎橋1丁目14番9号

(72)発明者 大西 伊知朗

大阪市中央区島之内1丁目13番13号 アップ
プリカ▲葛▼西株式会社内

(74)代理人 100064746

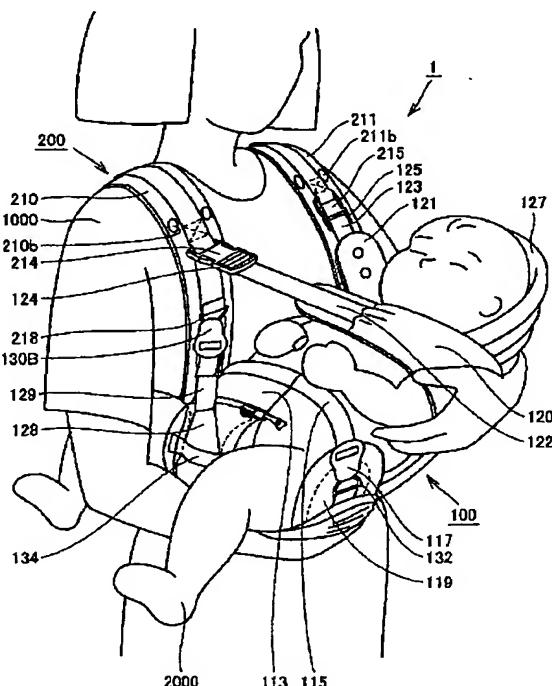
弁理士 深見 久郎 (外3名)

(54)【発明の名称】 子守帶

(57)【要約】

【課題】 新生児や、首、腰の座らない時期の乳児を寝かしたいわゆる横抱き状態、前面縦抱き状態、および、背面縦抱きの状態で保持することができる構造を有する子守帯を提供する。

【解決手段】 使用者装着部材200と赤ちゃん保持部材100との間には、お母さんの前面において、赤ちゃん保持部材100により、赤ちゃんを寝かせた状態で抱っこするための横抱き状態を可能にするための第1連結手段と、お母さんの前面において、赤ちゃん保持部材100により、赤ちゃんを起こした状態で抱っこするための前面縦抱き状態を可能にするための第2連結手段と、お母さんの背面において、赤ちゃん保持部材100により、赤ちゃんを起こした状態で抱っこするための背面縦抱き状態を可能にするための第3連結手段とが設けられる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 使用者が赤ちゃんを抱っこするために用いる子守帯であつて、

使用者に装着される使用者装着部材と、

前記使用者装着部材に対して着脱可能に設けられ、前記使用者装着部材とともに赤ちゃんを保持するための赤ちゃん保持部材と、を備え、

前記使用者装着部材と前記赤ちゃん保持部材との間に
は、

使用者の前面において、前記赤ちゃん保持部材により、
赤ちゃんを寝かせた状態で抱っこするための横抱き状態
を可能にするための第1連結手段と、

使用者の前面において、前記赤ちゃん保持部材により、
赤ちゃんを起こした状態で抱っこするための前面縦抱き
状態を可能にするための第2連結手段と、

使用者の背面において、前記赤ちゃん保持部材により、赤
ちゃんを起こした状態で抱っこするための背面縦抱き状
態を可能にするための第3連結手段と、が設けられる、
子守帯。

【請求項2】 前記使用者装着部材は、

使用者の背中に配置される使用者用背中パッド部材と、
前記使用者用背中パッド部材を使用者に装着するため、
前記使用者用背中パッド部材の上端部から前方に延びる
ように設けられる肩ベルトと、を備える、請求項1に記載の子守帯。

【請求項3】 前記使用者用背中パッド部材は芯材を含
む、請求項2に記載の子守帯。

【請求項4】 前記使用者装着部材は、使用者の腰に装
着される腰ベルトをさらに備える、請求項1から3のい
ずれかに記載の子守帯。

【請求項5】 前記腰ベルトは、前記使用者用背中パッ
ド部材を前記腰ベルトに対して上下方向に移動可能なよ
うに案内するための案内手段を備える、請求項4に記載の子守帯。

【請求項6】 前記案内手段は、前記使用者用背中パッ
ド部材を上下方向に移動可能なように前記使用者用背中
パッド部材の下端部領域を収容する袋状部分を有する、
請求項5に記載の子守帯。

【請求項7】 前記使用者用背中パッド部材と前記腰ベ
ルトとの間に、両者を連結するための連結手段が設けら
れる、請求項5または6に記載の子守帯。

【請求項8】 前記肩ベルトは左右1対となるように設
けられ、

前記赤ちゃん保持部は、赤ちゃんの頭部、上半身部およ
び下半身部を保持する帯状の保持部材を有し、

前記第1連結手段は、
前記保持部材の左右の上端部近傍を、前記1対の肩ベル
トのそれぞれに対して着脱可能に連結するための横抱上
部連結手段と、
前記保持部材の下端部を、前記1対の肩ベルトのいづれ

か一方に対して着脱可能に連結するための横抱下部連結
手段と、を含む、請求項2から7のいづれかに記載の子
守帯。

【請求項9】 前記横抱上部連結手段の内面側には、ク
ッション部材が設けられる、請求項8に記載の子守帯。

【請求項10】 前記保持部材は、赤ちゃんの頭部、上
半身部および下半身部に接し、内部に芯材が設けられる
赤ちゃん用パッド部材と、前記赤ちゃん用パッド部材の
外側に設けられ、赤ちゃんの頭部領域から下半身部領域
にかけて配置されるとともに、その下端部に前記横抱下
部連結手段が設けられる帶状支持部材とを備える、請求
項8または9に記載の子守帯。

【請求項11】 前記上半身部に位置する前記赤ちゃん
用パッド部材と前記帶状支持部材との間には、使用者の
手を挿入するための空間が設けられる、請求項10に記載
の子守帯。

【請求項12】 前記保持部材の背面側には、前記帶状
支持部材を収納するための帶状支持部材収納領域が設け
られる、請求項10または11に記載の子守帯。

20 【請求項13】 前記使用者装着部材は、使用者の腰に
装着される腰ベルトをさらに備え、
前記肩ベルトは左右1対となるように設けられ、
前記赤ちゃん保持部は、赤ちゃんの頭部、上半身部およ
び下半身部を保持する保持部材を有し、
前記第2連結手段は、

赤ちゃんの頭部領域に位置する前記保持部材の左右の上
端部近傍を、前記1対の肩ベルトのそれぞれに対して着
脱可能に連結するための前面縦抱上部連結手段と、
赤ちゃんの脇部領域に位置する前記保持部材の左右の中
間領域を、前記1対の肩ベルトのそれぞれに対して着脱
可能に連結するための前面縦抱中間部連結手段と、
赤ちゃんの股部に位置する前記保持部材の下端部を、前
記腰ベルトに対して着脱可能に連結するための前面縦抱
下端部連結手段と、を含む、請求項2から7のいづれか
に記載の子守帯。

【請求項14】 前記前面縦抱上部連結手段の内面側に
は、クッション部材が設けられる、請求項13に記載の子
守帯。

【請求項15】 前記前面縦抱中間部連結手段の内面側
には、クッション部材が設けられる、請求項13または
14に記載の子守帯。

【請求項16】 前記保持部材の背面側には、前記前面
縦抱上部連結手段を収納するための、前面縦抱上部連結
手段収納領域が設けられる、請求項13から15のいづ
れかに記載の子守帯。

【請求項17】 前記保持部材の背面側には、前記前面
縦抱中間部連結手段を収納するための、前面縦抱中間部
連結手段収納領域が設けられる、請求項13から16の
いづれかに記載の子守帯。

【請求項18】 前記使用者装着部材は、

前記肩ベルトは左右1対となるように設けられ、前記赤ちゃん保持部は、赤ちゃんの頭部、上半身部および下半身部を保持する保持部材を有し、

前記第3連結手段は、赤ちゃんの頭部領域に位置する前記保持部材の左右の上端部近傍を、前記1対の肩ベルトのそれぞれに対して着脱可能に連結するための背面縦抱上部連結手段と、赤ちゃんの脇部領域に位置する前記保持部材の左右の中間領域を、前記1対の

肩ベルトのそれぞれに対して着脱可能に連結するための背面縦抱中間部連結手段と、

赤ちゃんの股部に位置する前記保持部材の下端部を、前記保持部材の背面側に対して着脱可能に連結するための前面縦抱下端部連結手段と、を含む、請求項2から7のいずれかに記載の子守帶。

【請求項19】 前記背面縦抱上部連結手段の内面側には、クッション部材が設けられる、請求項18に記載の子守帶。

【請求項20】 前記背面縦抱中間部連結手段の内面側には、クッション部材が設けられる、請求項18または19に記載の子守帶。

【請求項21】 前記保持部材の背面側には、前記背面縦抱上部連結手段を収納するための、背面縦抱上部連結手段収納領域が設けられる、請求項18から20のいずれかに記載の子守帶。

【請求項22】 前記保持部材の背面側には、前記背面縦抱中間部連結手段を収納するための、背面縦抱中間部連結手段収納領域が設けられる、請求項18から21のいずれかに記載の子守帶。

【請求項23】 前記保持部材は、赤ちゃんの頭部、上半身部および下半身部に接し、内部に芯材が設けられる赤ちゃん用パッド部材を含む、請求項13から22のいずれかに記載の子守帶。

【請求項24】 前記上半身部に位置する前記赤ちゃん用パッド部材の外側には、帯状部材が設けられ、前記赤ちゃん用パッド部材と前記帯状部材とにより、前記使用者の手を挿入するための空間が設けられる、請求項23に記載の子守帶。

【請求項25】 前記赤ちゃん用パッド部材の、頭部領域および上半身部領域と、下半身部領域とは、分離可能に設けられる、請求項23または24に記載の子守帶。

【請求項26】 前記赤ちゃん用パッド部材の芯材は、下半身部領域において、内側に向けて屈曲するよう設けられる、請求項10から12、および23から25のいずれかに記載の子守帶。

【請求項27】 前記下半身部に位置する前記赤ちゃん用パッド部材の、赤ちゃんの股部が当接する領域には、内側に切り込まれた曲面領域が設けられる、請求項10から12、23から26のいずれかに記載の子守帶。

【請求項28】 前記下半身部に位置する前記赤ちゃん

用パッド部材の、赤ちゃんの股部が当接する領域には、補助パッド部材がさらに設けられる、請求項10から12、23から27のいずれかに記載の子守帶。

【請求項29】 前記保持部材の最下端部の左右の位置には、前記保持部材の左右の中間領域にそれぞれ連結するための、最下端部連結手段が設けられる、請求項8から28のいずれかに記載の子守帶。

【請求項30】 前記最下端部連結手段の長さを調節するための手段をさらに備える、請求項29に記載の子守帶。

【請求項31】 使用者が赤ちゃんを抱っこするために用いる子守部材であって、使用者の肩部に装着されるため、腕を通すための環状領域が設けられる使用者装着部材と、前記使用者装着部材に対して着脱可能に設けられ、前記使用者装着部材とともに赤ちゃんを保持するための赤ちゃん保持部材と、を備え、前記使用者装着部材と前記赤ちゃん保持部材との間に

10 20 は、使用者の前面において、前記赤ちゃん保持部材により、赤ちゃんを寝かせた状態で抱っこするための横抱き状態を可能にするための第1連結手段と、

使用者の前面において、前記赤ちゃん保持部材により、赤ちゃんを起こした状態で抱っこするための前面縦抱き状態を可能にするための第2連結手段と、使用者の背面において、前記赤ちゃん保持部材により、赤ちゃんを起こした状態で抱っこするための背面縦抱き状態を可能にするための第3連結手段と、が設けられる、子守部材。

30 【請求項32】 当該子守部材は、少なくとも前身ごろと後身ごろとを有する衣服形態を備える、請求項31に記載の子守部材。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、育児に用いられる子守帶の構造に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来の子持帯において、赤ちゃんを前面側と背面側とに乗せ変え可能な構造を有するものとして、特開平9-121987号公報に開示される子守帶を挙げることができる。この子守帶は、使用者に装着され、ベルト部材からなる支持手段に幼児収容体を着脱可能に取付けることを特徴としている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記子守帶の構造においては、使用者に装着される支持手段が、ベルト部材のみからなるために、幼児収容体に収容される赤ちゃんの体重が局所的に加わることになり、使用者への負担が大きい問題が挙げられる。

50 【0004】また、幼児の頭部領域が保護されていない

ため、特に使用者の背面側で赤ちゃんを保持する場合には、赤ちゃんの頭部の保護が十分でない問題が挙げられる。

【0005】また、赤ちゃんを前面側と背面側とに乗せ変える場合のいずれにおいても、赤ちゃんを縦抱きの状態で保持することを前提としており、新生児や、首、腰の座らない時期の乳児を寝かした状態で保持することができない。

【0006】したがって、この発明の目的は、上記問題点を解決するためになされたものであり、新生児や、首、腰の座らない時期の乳児を寝かした状態で保持することのできる、いわゆる横抱きを可能とするとともに、赤ちゃんの頭部の保護を十分に行なうことのできる構造を有する子守帯を提供することにある。

【0007】また、他の目的として、赤ちゃんの発育段階、生理特性を満足し、かつ、生活スタイルに応じてその形態を変化させることが可能な子守帯を提供することにある。

【0008】また、他の目的として、赤ちゃんの保持の安全性および快適性を損なうことなく、使用者に対する装着性能の向上を図ることを可能とする子守帯を提供することにある。

【0009】また、他の目的として、前面荷重、背面荷重において、バランス良く荷重を受けることにより、使用者への負担の軽減を図る構造を有する子守帯を提供することにある。

【0010】さらに、他の目的として、子守帯の機能を、カジュアルな上着に含ませることにより、ファッショナビリティを高めた子守帯を提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】この発明に基いた子守帯においては、使用者が赤ちゃんを抱っこするために用いる子守帯であって、使用者に装着される使用者装着部材と、上記使用者装着部材に対して着脱可能に設けられ、上記使用者装着部材とともに赤ちゃんを保持するための赤ちゃん保持部材とを備え、上記使用者装着部材と上記赤ちゃん保持部材との間には、使用者の前面において、上記赤ちゃん保持部材により、赤ちゃんを寝かせた状態で抱っこするための横抱き状態を可能にするための第1連結手段と、使用者の前面において、上記赤ちゃん保持部材により、赤ちゃんを起こした状態で抱っこするための前面縦抱き状態を可能にするための第2連結手段と、使用者の背面において、上記赤ちゃん保持部材により、赤ちゃんを起こした状態で抱っこするための背面縦抱き状態を可能にするための第3連結手段とが設けられる。

【0012】上記構成を採用することにより、子守帯の使用に際して、横抱き状態、前面縦抱き状態および背面縦抱き状態での使用が可能となるため、子守帯の使用に際して、新生児期からの使用が可能になる。

【0013】また、上記発明において好ましくは、上記

使用者装着部材は、使用者の背中に配置される使用者用背中パッド部材と、上記使用者用背中パッド部材を使用者に装着するため、上記使用者用背中パッド部材の上端部から前方に延びるように設けられる肩ベルトとを備える。

【0014】上記構成を採用することにより、赤ちゃんの体重を使用者用背中パッド部材全体で受けることが可能になり、使用者に加わる赤ちゃんの体重を背中全体に分散させることができることになる。これにより、使用者の疲労感が軽減され、子守帯の使用感覚を改善させることができる。

【0015】また、上記発明において好ましくは、上記使用者用背中パッド部材は芯材を含む。これにより、特に、背面縦抱き状態においては、使用者に加わる赤ちゃんの体重を効果的に背中全体に分散させることができることになる。

【0016】また、上記発明において好ましくは、上記使用者装着部材は、使用者の腰に装着される腰ベルトをさらに備える。これにより、使用者装着部材の使用者への装着をより安定させることができるとともに、赤ちゃんの体重を腰部領域にも分散させることができることになる。

【0017】また、上記発明において好ましくは、上記腰ベルトは、上記使用者用背中パッド部材を上記腰ベルトに対して上下方向に移動可能なよう案内するための案内手段を備える。また、好ましくは、上記案内手段は、上記使用者用背中パッド部材を上下方向に移動可能なよう上記使用者用背中パッド部材の下端部領域を収容する袋状部分を有する。また、好ましくは、上記使用者用背中パッド部材と上記腰ベルトとの間に、両者を連結するための連結手段が設けられる。

【0018】この構成により、使用者用背中パッド部材が腰ベルトに対して伸縮することになるため、使用者の体型に応じて、使用者用背中パッド部材の位置を適合させることができることになる。

【0019】また、上記発明において好ましくは、上記肩ベルトは左右1対となるように設けられ、上記赤ちゃん保持部材は、赤ちゃんの頭部、上半身部および下半身部を保持する帯状の保持部材を有し、上記第1連結手段は、上記保持部材の左右の上端部近傍を、上記1対の肩ベルトのそれぞれに対して着脱可能に連結するための横抱上部連結手段と、上記保持部材の下端部を、上記1対の肩ベルトのいずれか一方に対して着脱可能に連結するための横抱下部連結手段とを含む。この構成により、赤ちゃんを横抱きにして保持することが可能になり、新生児や、首、腰の座らない時期の乳児を寝かした状態で保持することが可能になる。

【0020】また、上記発明において好ましくは、上記横抱上部連結手段の内面側には、クッション部材が設けられる。この構成により、横抱上部連結手段の内面側が赤ちゃんに当接する場合においても、赤ちゃん

への不快感を防止することが可能になる。

【0021】また、上記発明においてさらに好ましくは、上記保持部材は、赤ちゃんの頭部、上半身部および下半身部に接し、内部に芯材が設けられる赤ちゃん用パッド部材と、上記赤ちゃん用パッド部材の外側に設けられ、赤ちゃんの頭部領域から下半身部領域にかけて配置されるとともに、その下端部に上記横抱下部連結手段が設けられる帯状支持部材とを備える。この構成により、赤ちゃんが接する部分においては、赤ちゃん用パッド部材が設けられていることから、赤ちゃんに対して、快適な空間を提供することが可能になる。また、帯状支持部材を設けることにより、赤ちゃんを背面側から全体的にサポートすることが可能になるため、赤ちゃんのサポート時における安定性を向上させることが可能になる。

【0022】また、上記発明においてさらに好ましくは、上記上半身部に位置する上記赤ちゃん用パッド部材と上記帯状支持部材との間には、使用者の手を挿入するための空間が設けられる。この空間に使用者の手を挿入することにより、使用者の手によるサポートが安定し、赤ちゃんのサポート時における安定性をさらに向上させることができる。

【0023】また、上記発明においてさらに好ましくは、上記保持部材の背面側には、上記帯状支持部材を収納するための帯状支持部材収納領域が設けられる。これにより、帯状支持部材の不使用時には帯状支持部材収納領域に帯状支持部材を収納することが可能になるため、外観上の意匠の向上を図ることが可能になる。

【0024】また、上記発明においてさらに好ましくは、上記使用者装着部材は、使用者の腰に装着される腰ベルトをさらに備え、上記肩ベルトは左右1対となるよう設けられ、上記赤ちゃん保持部は、赤ちゃんの頭部、上半身部および下半身部を保持する保持部材を有し、上記第2連結手段は、赤ちゃんの頭部領域に位置する上記保持部材の左右の上端部近傍を、上記1対の肩ベルトのそれぞれに対して着脱可能に連結するための前面縦抱上部連結手段と、赤ちゃんの脇部領域に位置する上記保持部材の左右の中間領域を、上記1対の肩ベルトのそれぞれに対して着脱可能に連結するための前面縦抱中間部連結手段と、赤ちゃんの股部に位置する上記保持部材の下端部を、上記腰ベルトに対して着脱可能に連結するための前面縦抱下端部連結手段とを含む。

【0025】この構成により、赤ちゃんを使用者の前面において縦抱きにして保持することが可能になる。また、前面縦抱上部連結手段を備えることから、赤ちゃんの頭部の側面部にこの前面縦抱上部連結手段が位置することとなり、赤ちゃんの頭部の横振れを防止して、赤ちゃんの頭部および頸椎領域を保護することが可能になる。

【0026】また、上記発明においてさらに好ましくは、上記前面縦抱上部連結手段の内面側には、クッショ

ン部材が設けられる。また、上記発明においてさらに好ましくは、上記前面縦抱中間部連結手段の内面側には、クッション部材が設けられる。この構成により、前面縦抱上部連結手段の内面側および前面縦抱中間部連結手段の内面側が赤ちゃんに当接する場合においても、赤ちゃんへの不快感を防止することが可能になる。

【0027】また、上記発明においてさらに好ましくは、上記保持部材の背面側には、上記前面縦抱上部連結手段を収納するための、前面縦抱上部連結手段収納領域が設けられる。また、上記発明においてさらに好ましくは、上記保持部材の背面側には、上記前面縦抱中間部連結手段を収納するための、前面縦抱中間部連結手段収納領域が設けられる。これにより、前面縦抱上部連結手段または前面縦抱中間部連結手段の不使用時にはそれぞれの収納領域に前面縦抱上部連結手段または前面縦抱中間部連結手段を収納することが可能になるため、外観上の意匠の向上を図ることが可能になる。

【0028】また、上記発明においてさらに好ましくは、上記使用者装着部材は、上記肩ベルトは左右1対となるように設けられ、上記赤ちゃん保持部は、赤ちゃんの頭部、上半身部および下半身部を保持する保持部材を有し、上記第3連結手段は、赤ちゃんの頭部領域に位置する上記保持部材の左右の上端部近傍を、上記1対の肩ベルトのそれぞれに対して着脱可能に連結するための背面縦抱上部連結手段と、赤ちゃんの脇部領域に位置する上記保持部材の左右の中間領域を、上記1対の肩ベルトのそれぞれに対して着脱可能に連結するための背面縦抱中間部連結手段と、赤ちゃんの股部に位置する上記保持部材の下端部を、上記保持部材の背面側に対して着脱可能に連結するための背面縦抱下端部連結手段とを含む。

【0029】この構成により、赤ちゃんを使用者の背面において縦抱きにして保持することが可能になる。また、背面縦抱上部連結手段を備えることから、赤ちゃんの頭部の側面部にこの背面縦抱上部連結手段が位置することとなり、赤ちゃんの頭部の横振れを防止して、赤ちゃんの頭部および頸椎領域を保護することが可能になる。

【0030】また、上記発明においてさらに好ましくは、上記背面縦抱上部連結手段の内面側には、クッション部材が設けられる。また、上記発明においてさらに好ましくは、上記背面縦抱中間部連結手段の内面側には、クッション部材が設けられる。この構成により、背面縦抱上部連結手段の内面側および背面縦抱中間部連結手段の内面側が赤ちゃんに当接する場合においても、赤ちゃんへの不快感を防止することが可能になる。

【0031】また、上記発明においてさらに好ましくは、上記保持部材の背面側には、上記背面縦抱上部連結手段を収納するための、背面縦抱上部連結手段収納領域が設けられる。また、上記発明においてさらに好ましくは、上記保持部材の背面側には、上記背面縦抱中間部連結手段

結手段を収納するための、背面縦抱中間部連結手段収納領域が設けられる。これにより、背面縦抱上部連結手段または背面縦抱中間部連結手段の不使用時にはそれぞれの収納領域に背面縦抱上部連結手段または背面縦抱中間部連結手段を収納することが可能になるため、外観上の意匠の向上を図ることが可能になる。

【0032】また、上記発明において好ましくは、上記保持部材は、赤ちゃんの頭部、上半身部および下半身部に接し、内部に芯材が設けられる赤ちゃん用パッド部材を含む。この構成により、赤ちゃんを背面側から確実にサポートすることが可能になり、赤ちゃんの保持状態を安定させることができることになる。

【0033】また、上記発明において好ましくは、上記上半身部に位置する上記赤ちゃん用パッド部材の外側には、帯状部材が設けられ、上記赤ちゃん用パッド部材と上記帯状部材とにより、上記使用者の手を挿入するための空間が設けられる。この空間に使用者の手を挿入することにより、使用者の手によるサポートが安定し、赤ちゃんのサポート時における安定性をさらに向上させることができることになる。

【0034】また、上記発明において好ましくは、上記赤ちゃん用パッド部材の、頭部領域および上半身部領域と、下半身部領域とは分離可能に設けられる。この構成により、赤ちゃんが成長し、首および腰が座った状態においては、使用者の前面または背面における縦抱状態時に上半身部領域を取外すことにより、赤ちゃんは上半身を自由に動かすことが可能になり、赤ちゃんの好奇心を満足させることができることになる。

【0035】また、上記発明において好ましくは、上記赤ちゃん用パッド部材の芯材は、下半身部領域において、内側に向けて屈曲するように設けられる。これにより、特に縦抱き時において、下半身部領域の屈曲面により赤ちゃんの体重が使用者側に移動させされることになる。その結果、赤ちゃんの体重による使用者装着部材の下方への引張りが軽減され、より効果的に赤ちゃんの体重を使用者用背中パッド部材全体で受けられることが可能になる。

【0036】また、上記発明において好ましくは、上記下半身部に位置する前記赤ちゃん用パッド部材の、赤ちゃんの股部が当接する領域には、内側に切り込まれた曲面領域が設けられる。これにより、使用者装着部材に赤ちゃん保持部材を装着したままにおいても、赤ちゃんを前向き、後向きのいずれの状態で保持した場合にも、赤ちゃんの股部に余裕が生まれ、赤ちゃんに不快感を与えることがない。

【0037】また、上記発明において好ましくは、上記下半身部に位置する上記赤ちゃん用パッド部材の、赤ちゃんの股部が当接する領域には、補助パッド部材がさらに設けられる。このように補助パッド部材を設けることにより、赤ちゃんの股部へのパッド部材の当接

が和らげられ、赤ちゃんに与える不快感を解消することが可能になる。また、赤ちゃんを前向き状態、後向き状態で載せた場合でも、赤ちゃんの股部に不快感を与えることがない。

【0038】また、上記発明において好ましくは、上記保持部材の最下端部の左右の位置には、上記保持部材の左右の中間領域にそれぞれ連結するための、最下端部連結手段が設けられる。これにより、保持部材の下端部領域において、赤ちゃんの下腹部領域を保護する

10 ことが可能になる。

【0039】また、最下端部連結手段に長さ調節機能を有する構成を採用することにより、赤ちゃんの股ぐり寸法に応じた収容空間を形成することが可能になり、赤ちゃんを最適な状態で、保持することが可能になる。

【0040】この発明に基づいた子守部材においては、使用者が赤ちゃんを抱っこするために用いる子守部材であって、使用者の肩部に装着されるため、腕を通すための環状領域が設けられる使用者装着部材と、上記使用者装着部材に対して着脱可能に設けられ、上記使用者装着

20 部材とともに赤ちゃんを保持するための赤ちゃん保持部材とを備え、上記使用者装着部材と上記赤ちゃん保持部材との間には、使用者の前面において、上記赤ちゃん保持部材により、赤ちゃんを寝かせた状態で抱っこするための横抱き状態を可能にするための第1連結手段と、使用者の前面において、上記赤ちゃん保持部材により、赤ちゃんを起こした状態で抱っこするための前面縦抱き状態を可能にするための第2連結手段と、使用者の背面において、上記赤ちゃん保持部材により、赤ちゃんを起こした状態で抱っこするための背面縦抱き状態を可能にするための第3連結手段とが設けられる。

【0041】上記構成を採用することにより、子守部材の使用に際して、横抱き状態、前面縦抱き状態および背面縦抱き状態での使用が可能となるため、子守部材の使用に際して、新生児期からの使用が可能になる。

【0042】また、上記発明において好ましくは、当該子守部材は、少なくとも前身ごろと後身ごろとを有する衣服形態を備える。これにより、子守部材のファッショニ性の向上が図られ、子守部材の装着時における違和感を軽減することができるようになる。

【0043】

【発明の実施の形態】以下、この発明に基づいた実施の形態における子守帶1について、図を参照しながら説明する。

【0044】（子守帶1の特徴的構成）まず、本実施の形態における子守帶1の特徴的構成としては、図1に示すように、赤ちゃん保持部材100とリュック形式の使用者装着部材200とを備え、使用者であるお母さん1000の前面において、赤ちゃん2000を横抱きすることができる状態と、図2に示すように、お母さん1000の前面において、赤ちゃん2000を縦抱きするこ

50

とができる状態（対面状態）と、図3に示すように、お母さん1000の前面において、赤ちゃん保持部材100の上半身領域を取外し、赤ちゃん2000を前向きの縦抱きにすることができる状態と、図4に示すように、お母さん1000の背面において、赤ちゃん2000を縦抱きすることができる状態（赤ちゃん2000は前向き）と、図5に示すように、お母さん1000の背面において、赤ちゃん保持部材100の上半身領域を取外し、赤ちゃん2000を後向きの縦抱きにすることができる状態と、が選択可能に設けられていることを特徴としている。

【0045】ここで、図1に示す状態においては、赤ちゃん保持部材100と使用者装着部材200との間に、お母さん1000の前面において、赤ちゃん保持部材100により、赤ちゃん2000を寝かせた状態で抱っこするための横抱き状態を可能にするための第1連結手段が設けられており、図2および図3に示す状態においては、お母さん1000の前面において、赤ちゃん保持部材100により、赤ちゃん2000を起こした状態で抱っこするための前面縦抱き状態を可能にするための第2連結手段が設けられており、図4および図5に示す状態においては、お母さん1000の背面において、赤ちゃん保持部材100により、赤ちゃん2000を起こした状態で抱っこするための背面縦抱き状態を可能にするための第3連結手段が設けられている。

【0046】以下、図を参照しながら、まず赤ちゃん保持部材100および使用者装着部材200の構造について説明する。

【0047】（赤ちゃん保持部材100の構造）図6から図9を参照して、赤ちゃん保持部材100の構造について説明する。なお、図6は、赤ちゃん保持部材100を内面側から見た平面図であり、図7は、赤ちゃん保持部材100を外面側から見た背面図であり、図8は、図6中VIII-VIII線矢視にしたがった第1断面図であり、図9は、図6中VIII-VIII線矢視にしたがった第2断面図である。

【0048】本実施の形態における赤ちゃん保持部材100は、背面保持部材101、股間部保持部材110、腹部保持部材113、および背中部保持部材118を備え、全体として縦長の帯状の形態を呈している。

【0049】図6を参照して、背面保持部材101の両側には、側部保持部材102、103が設けられ、この側部保持部材102、103の外側にはそれぞれ、耳状部材119A、119Bが設けられている。側部保持部材102、103のそれぞれの上端部分には、延長部104、105が設けられ、この延長部104、105には、上方に延びるようにベルト部材106、107が設けられている。ベルト部材106、107の先端部分には、ベルト部材106、107の長さ調節が可能な、オス型バックル108、109が連結されている。

【0050】なお、背面保持部材101、側部保持部材102、103、耳状部材119A、119B、および延長部104、105の内面部分には、赤ちゃん2000が接する領域であるため、通気性のあるクッション部材が設けられている。

【0051】図7を参照して、背面保持部材101の外面部には、袋状部材101aが設けられ、側部保持部材102、103の外面部にも、袋状部材102a、103aが設けられている。各袋状部材101a、102a、103aの上部は、開放状態となるように取付けられ、袋状部材101a、102a、103aの上端部には、ギャザーアGが設けられている。

【0052】背面保持部材101と袋状部材101aとの間によって形成される空間101Aには、後述する帯状支持部材128が収納可能とされ、側部保持部材102と袋状部材102aとの間によって形成される空間102Aには、延長部104、ベルト部材106、およびオス型バックル108が収納可能とされ、側部保持部材103と袋状部材103aとの間によって形成される空間103Aには、延長部105、ベルト部材107、およびオス型バックル109が収納可能とされる。

【0053】また、耳状部材119A、119Bの外面部には、リング状部材131、132がそれぞれ設けられている。

【0054】再び、図6を参照して、股間部保持部材110は、赤ちゃん2000の股部の形状に沿うように両側が、内側に切り込まれた曲面領域111a、111bが形成され、この曲面領域111a、111bを埋めるように、補助パッド部材111、112が設けられている。なお、股間部保持部材110の内面部分は、赤ちゃん2000が接する領域であるため、通気性のあるクッション部材が設けられている。

【0055】また、補助パッド部材111、112は、赤ちゃん2000の股部へのパッド部材の当接を和らげるとともに、前向きおよび後向きのどちらの状態でも（図2および図3に示す状態）、赤ちゃん2000の股部に与える不快感を解消することを目的としていることから、股間部保持部材110の内面部分に設けられるクッション部材よりも柔らかいクッション部材が設けられていることが好ましく、また、縫い目を、赤ちゃん2000の股部には当接しない位置に配置することが好ましい。

【0056】また、図7を参照して、股間部保持部材110の外面部には、股間部保持部材110との間に通過領域を形成するようにループ134が取付けられている。

【0057】再び、図6を参照して、腹部保持部材113の先端部分には、横方向に延びる貫通路114が設けられ、この貫通路114の内部には、ベルト115が配置され、このベルト115の両側の先端部分には、ベル

ト115の長さ調節が可能なフック部材116, 117が設けられている。なお、腹部保持部材113の内面部分は、赤ちゃん2000が接する領域であるため、通気性のあるクッション部材が設けられている。

【0058】また、図7を参照して、股間部保持部材110と腹部保持部材113との境界領域の外面部には、ファスナレール133が設けられ、このファスナレール133には、ファスナ133Aが設けられこのファスナ133Aには、係合ボタン133Bが設けられている。

【0059】図6および図8を参照して、背中部保持部材118は芯材としての赤ちゃん用パッド部材118b, 118cを備え、上部パッド部材118bに対して、下部パッド部材118cは、内側（後述する帯状支持部材128が設けられる側とは反対側）に向けて屈曲するように取付けられている。赤ちゃん用パッド部材118b, 118cの表面は、通気性のあるクッション部材で覆われている。

【0060】赤ちゃん用パッド部材118b, 118cは、背面保持部材101と袋状部材101aとの間に設けられた空間101A内に、下部パッド部材118cが収容可能に設けられ、背面保持部材101と下部パッド部材118cとの間には、面ファスナ135, 136が設けられることにより、背面保持部材101と下部パッド部材118cとの着脱が可能に設けられている。

【0061】背中部保持部材118の外側には、図7に示すように、背中部保持部材118の上端部から股間部保持部材110にかけて帯状支持部材128が設けられている。帯状支持部材128は、その上端部のみが背中部保持部材118に固定されている。また、図8に示すように、赤ちゃん用パッド部材118bの外側に位置する領域においては、使用者であるお母さん1000の手を挿入することができるように、空間128aが形成されるように、帯状支持部材128が背中部保持部材118に取付けられている。

【0062】帯状支持部材128の下方先端部分には、ベルト129が取り付けられ、このベルト129の先端部分には、ベルト129の長さ調節が可能なフック部材130Bが設けられている。

【0063】また、この帯状支持部材128の不使用時には、図9に示すように、背面保持部材101と袋状部材101aとの間に設けられた空間101A内に収容可能に形成されている。

【0064】背中部保持部材118の上端部には、赤ちゃん2000の頭部領域を保護するための扇状の頭部保護パッド127が設けられ、柔軟なクッション部材から構成されている。また、頭部保護パッド127は、図8に示すように、内側に向く位置と、図9に示すように、外側に向く位置とが選択可能に設けられている。

【0065】また、背中部保持部材118の上端部の左右両側には、図6および図7に示すようにヘッドサポー

ト120, 121が設けられている。ヘッドサポート120の先端部分には、外側に係合領域を有する係合ボタン126が2箇所設けられている。また、ベルト122が設けられ、このベルト122の先端部分には、ベルト122の長さ調節が可能なオス型バックル124が設けられている。ヘッドサポート121の先端部分には、外側に係合領域を有する係合ボタン126が2箇所設けられている。また、ベルト123が設けられ、このベルト123の先端部分には、ベルト123の長さ調節が可能なオス型バックル125が設けられている。

【0066】図7を参照して、ヘッドサポート120の外側には、ヘッドサポート120とともに空間120Aを形成する袋状部材120Bが取付けられ、袋状部材120Bの開口端部にはギャザアGが設けられている。ベルト122の不使用時には、ベルト122はこの空間120A内に収納される。ヘッドサポート121の外側には、ヘッドサポート121とともに空間121Aを形成する袋状部材121Bが取付けられ、袋状部材121Bの開口端部にはギャザアGが設けられている。ベルト123の不使用時には、ベルト123はこの空間121A内に収納される。

【0067】（使用者装着部材200の構造）次に、図10から図15を参照して、使用者装着部材200の構造について説明する。なお、図10は、使用者装着部材200を開いた状態での正面図であり、図11は、使用者装着部材200を開いた状態での背面図であり、図12は、使用者装着部材200を閉じた状態での正面図であり、図13および図14は、図11中のXIII-XIII線矢視における第1および第2断面図であり、図15は、図11中XV-XV線矢視における断面図である。

【0068】図10から図12を参照して、この使用者装着部材200は、使用者であるお母さん1000に装着されることを目的としており、使用者用背中パッド部材201と、この使用者用背中パッド部材201の上端部から上方に延びるように設けられる1対の肩ベルト210, 211とを備える。さらに、本実施の形態においては、使用者装着部材200の下端部領域に、お母さん1000の腰に装着される腰ベルト300が設けられている。

【0069】図13の断面図に示すように、使用者用背中パッド部材201は、芯材201aと、この芯材201aを覆うように通気性を有するクッション部材201bが設けられている。再び、図10から図12を参照して、使用者用背中パッド部材201の上端部からは、1対の肩ベルト210, 211が設けられている。肩ベルト210の上方には、内側に係合領域を有する2個の係合ボタン210bと、2個の係合ボタン210cが設けられている。同様に、肩ベルト211の上方には、内側に係合領域を有する2個の係合ボタン211bと、2個

の係合ボタン211cが設けられている。

【0070】肩ベルト210の外面の中央領域には、補強ベルト210Aが取付けられている。この補強ベルト210Aの中央領域には、補強ベルト210Aが延びる方向に沿ってスライド可能なように、メス型バックル214が取付けられている。また、このメス型バックル214の下方の補強ベルト210Aには、ループ218が設けられている。補強ベルト210Aの下端部には、後述する腰ベルトに設けられる補強ベルト303の長さ調節を行なうために、長さ調節用リング216が取付けられている。

【0071】肩ベルト211の外面の中央領域には、肩ベルト210と同様に、補強ベルト211Aが取付けられている。この補強ベルト211Aの中央領域には、補強ベルト211Aが延びる方向に沿ってスライド可能なように、メス型バックル215が取付けられている。また、このメス型バックル215の下方の補強ベルト211Aには、ループ219が設けられている。補強ベルト211Aの下端部には、後述する腰ベルトに設けられる補強ベルト304の長さ調節を行なうために、長さ調節用リング217が取付けられている。

【0072】また、使用者用背中パッド部材201の内面の、お母さん1000の肩部に当接するの背中領域には、パッド部材202、203が設けられている。

【0073】使用者用背中パッド部材201の外面には、図11に示すように、肩ベルト210、211の近傍に、縦方向に通過領域を形成するループ212、213が設けられ、中間領域の外側に、横方向に通過領域を形成するループ220、221が設けられている。

【0074】使用者用背中パッド部材201の下方領域には、横方向に延びるように腰ベルト300が設けられている。この腰ベルト300は、中央領域301、側部領域302A、302Bを備え、全体として横長の帯形状を呈し、表面は通気を有するクッション部材から構成されている。

【0075】中央領域301には、図13の断面図に示すように、使用者用背中パッド部材201の下端部収容し、使用者用背中パッド部材201が上下方向に摺動可能にガイドするための案内領域を形成するための袋状ガイド部材310が設けられている。また、中央領域301は、使用者用背中パッド部材201からの力を十分受けることができるよう、芯材301aと、この芯材301aを覆うように設けられる通気性の有るクッション部材301bとを有している。

【0076】また、使用者用背中パッド部材201と中央領域301との間には、使用者用背中パッド部材201の中央領域301からの外れを防止するために、両者を連結するための連結部材309が設けられている。その結果、図13に示す状態は、使用者用背中パッド部材201が中央領域301に最も近接している位置を示

し、図14は、使用者用背中パッド部材201が中央領域301から最も離れた状態を示している。

【0077】なお、芯材301aについては、必ず必要な部材ではなく、力の分散が使用者用背中パッド部材201で十分であると考えられる場合は、設ける必要はない。

【0078】図11および図13を参照して、使用者用背中パッド部材201の外面側において、袋状ガイド部材310の上部近傍領域には、横方向に延びるファスナーレール219が設けられている。また、このファスナーレール219を上方から覆うようにファスナカバー218が設けられ、このファスナカバー218の外面には、外側に係合領域を有する係合ボタン218aが設けられている。

【0079】図11を参照して、腰ベルト300の側部領域302Aの外面には、補強ベルト303が取付けられている。この補強ベルト303の一端は、長さ調節用リング216に係合している。また、補強ベルト303の他端側は、お母さん1000の腹部を取り巻くために長く設けられ、先端部分に長さ調節可能な、オス型バックル305が取付けられている。

【0080】また、補強ベルト303には、補強パッド400Aが設けられている。図11および図15を参照して、この補強パッド400Aは、芯材402と、この芯材402を覆うクッション部材403と、補強ベルト303を通過させるための空間400aを形成するためのループ部材404とを備える。さらに、ループ部材404の上端部には、ファスナーレール401が設けられ、このファスナーレール401を上方から覆うようにファスナカバー400が設けられ、このファスナカバー400の外面には、外側に係合領域を有する係合ボタン405aが設けられている。

【0081】なお、上記実施の形態において連結部材を収納するための収納空間を設け、この収納空間に所定部材を収納可能にする理由は、上記図1から図5に示す使用状態においては、使用する部材と使用しない部材とが存在し、使用しない部材については、収納空間に部材を収納することにより意匠上の外観を向上させるため、また、あらかじめ使用しない部材を収納しておくことで、誤使用を防ぐためである。なお、本実施の形態においては、収納空間をあらかじめ設けるようにしたが、各部材を着脱可能な構成にして、使用時の装着し、不使用時には取外す構成を採用することも可能である。

【0082】(赤ちゃん保持部材100と使用者装着部材200との結合関係) 次に、再び図1から図5を参照して、各使用形態における赤ちゃん保持部材100と使用者装着部材200との結合関係について説明する。

【0083】上述したように、本実施の形態における子守帯1の特徴的構成としては、赤ちゃん保持部材100と使用者装着部材200との結合関係を選択することに

より、図1に示す、使用者であるお母さん1000の前面において、赤ちゃん2000を横抱きすることができる状態と、図2に示す、お母さん1000の前面において、赤ちゃん2000を縦抱きすることができる状態(対面状態)と、図3に示す、お母さん1000の前面において、赤ちゃん保持部材100の上半身領域を取外し、赤ちゃん2000を前向きの縦抱きにすることができる状態と、図4に示す、お母さん1000の背面において、赤ちゃん2000を縦抱きすることができる状態(赤ちゃんは前向き)と、図5に示す、お母さん1000の背面において、赤ちゃん保持部材100の上半身領域を取外し、赤ちゃん2000を後向きの縦抱きにすることができる状態とを選択することができる点にある。

【0084】(横抱き連結状態)まず、図1を参照して、赤ちゃん保持部材100により、赤ちゃんを寝かせた状態で抱っこするための横抱き状態を可能にするための第1連結手段について説明する。

【0085】横抱き状態を可能にするためには、使用者装着部材200の肩ベルト210に設けられたメス型バックル214に、赤ちゃん保持部材100のヘッドサポート120から延びるベルト122に設けられたオス型バックル124を連結させる。

【0086】また、使用者装着部材200の肩ベルト211に設けられたメス型バックル215に、赤ちゃん保持部材100のヘッドサポート121から延びるベルト123に設けられたオス型バックル125を連結させる。

【0087】さらに、赤ちゃん保持部材100に設けられた帯状支持部材128を赤ちゃん2000の股部を通過させるとともに、帯状支持部材128の先端部に設けられたベルト129をループ134を通して、ベルト129の先端に設けられたフック部材130Bを、肩ベルト210に設けられたループ218に係合させる。

【0088】なお、メス型バックル214とオス型バックル124、およびメス型バックル215とオス型バックル125により、横抱き上部連結手段を構成し、フック部材130Bとループ218とにより、横抱き下部連結手段を構成する。

【0089】また、赤ちゃん2000の下腹部を保護するために、腹部保持部材113に設けられたベルト115に取付けられたフック部材117を、耳状部材119Bに設けられたリング状部材132に係合させる。図示していないが、ベルト115の反対側に設けられたフック部材116についても、同様に耳状部材119Aに設けられたリング状部材131に係合させる。ここで、上述したようにフック部材116、117にベルト115の長さを調節できるようにしておくことで、赤ちゃん2000の股ぐり寸法に適用した腹部保持部材113の位置決めを行なうことが可能になり、赤ちゃんの下腹部を適切に保護することが可能になる。

【0090】なお、図1に示す状態は、赤ちゃん2000の頭がお母さん1000の左腕側に位置する場合を示しているが、赤ちゃん2000の頭がお母さん1000の右腕側に位置する場合にも、同様の結合状態を採用することにより実現することが可能である。

【0091】また、この横抱き状態においては、赤ちゃん2000の頭部側を2点で支持し、また、頭部側から股部を通過する帯状支持部材128により、赤ちゃん2000の背面部を全体的に覆うようにして支持する、3点支持構造を採用していることから、赤ちゃん2000の横抱き状態を安定させることが可能になる。

【0092】また、赤ちゃん保持部材100に設けられた延長部104、105、ベルト部材106、107、およびオス型バックル108、109は、この使用形態では用いることがないため、空間102A、103Aに収納しておくことで、誤使用を防ぐとともに、意匠上の観点からもすっきりした印象を与えることができる。

【0093】(前面縦抱き連結状態)次に、図2を参照して、赤ちゃん保持部材100により、赤ちゃん2000をお母さん1000の前面において縦抱き状態を可能にするための第2連結手段について説明する。

【0094】前面縦抱き状態を可能にするためには、使用者装着部材200の肩ベルト210に設けられた2個の係合ボタン210bに、赤ちゃん保持部材100のヘッドサポート121に設けられた2個の係合ボタン126を嵌め合わせる。このとき、赤ちゃん保持部材100のヘッドサポート121から延びるベルト121は使用しないため、あらかじめ空間121Aに収納しておく。

【0095】また、使用者装着部材200の肩ベルト210に設けられたメス型バックル214に、赤ちゃん保持部材100の延長部105から延びるベルト部材107の先端に設けられるオス型バックル109を連結させる。

【0096】また、使用者装着部材200の肩ベルト211に設けられた2個の係合ボタン211bに、赤ちゃん保持部材100のヘッドサポート120に設けられた2個の係合ボタン126を嵌め合わせる。このとき、赤ちゃん保持部材100のヘッドサポート120から延びるベルト122は使用しないため、あらかじめ空間120Aに収納しておく。

【0097】また、図示していないが、使用者装着部材200の肩ベルト211に設けられたメス型バックル215に、赤ちゃん保持部材100の延長部104から延びるベルト部材106の先端に設けられるオス型バックル108を連結させる。

【0098】さらに、図示していないが、赤ちゃん保持部材100に設けられたファスナーレール133と、使用者装着部材200の補強パッド400Aに設けられたファスナーレール401とをファスナ133Aを用いて結合させる。なお、ファスナ133Aの移動を防止するため

に、ファスナ133Aに設けられた係合ボタン133Bと、ファスナカバー400に設けられた係合ボタン405aとを嵌め合わせる。

【0099】なお、肩ベルト210側における2個の係合ボタン210bと2個の係合ボタン126、および、肩ベルト211側における2個の係合ボタン211bと2個の係合ボタン126により前面縦抱上部連結手段を構成し、肩ベルト210側におけるメス型バックル214とオス型バックル109、および肩ベルト211側におけるメス型バックル215とオス型バックル108により、前面縦抱中間部連結手段を構成し、ファスナーレル133、ファスナーレール401およびファスナ133Aにより、前面縦抱下端部連結手段を構成する。

【0100】また、赤ちゃん2000の下腹部を保護するために、腹部保持部材113に設けられたベルト115に取付けられたフック部材117を、耳状部材119Bに設けられたリング状部材132に係合させる。図示していないが、ベルト115の反対側に設けられたフック部材116についても、同様に耳状部材119Aに設けられたリング状部材131に係合させる。

【0101】この縦抱き状態においては、赤ちゃん2000の頭部側を2点で支持し、赤ちゃん2000の腹部側面を2点で支持し、さらに赤ちゃん2000の股部を1点で支持する5点支持構造を採用していることから、赤ちゃん2000の縦抱き状態を安定させることが可能になる。また、赤ちゃん2000の頭部側面に、ヘッドサポート120、121が配設されることから、赤ちゃん2000の頭部の振れを防止し、赤ちゃん2000の頭部および頸椎領域の保護を図ることが可能になる。

【0102】また、赤ちゃん保持部材100の背中部保持部材118の背面側には、帯状支持部材128により空間128aが形成されていることから、お母さん1000の手1001をこの空間128aに挿入して沿えることができるため、さらに安定した状態で、赤ちゃん2000を保持することが可能となる。

【0103】なお、赤ちゃん200が成長して首および腰が座り、赤ちゃん2000を自立させておくことに対して医学的な問題が生じない場合は、図3に示すように、背中部保持部材118を赤ちゃん保持部材100から取外すことにより、赤ちゃん2000を前向きにして縦抱っこをすることが可能になる。

【0104】また、赤ちゃん保持部材100に設けられたベルト部材121、122、オス型バックル124、125、および帯状支持部材128は、この使用形態では用いることがないため、空間120A、121A、101Aにそれぞれ収納しておくことで、誤使用を防ぐとともに、意匠上の観点からもすっきりした印象を与えることができる。

【0105】(背面縦抱き連結状態) 次に、図4を参照して、赤ちゃん保持部材100により、赤ちゃん200

0をお母さん1000の背面において縦抱き状態を可能にするための第3連結手段について説明する。

【0106】背面縦抱き状態を可能にするためには、使用者装着部材200の肩ベルト211に設けられた2個の係合ボタン211cに、赤ちゃん保持部材100のヘッドサポート121に設けられた2個の係合ボタン126を嵌め合わせる。このとき、赤ちゃん保持部材100のヘッドサポート121から延びるベルト121は使用しないため、あらかじめ空間121Aに収納しておく。

【0107】また、使用者装着部材200の肩ベルト211に設けられたメス型バックル215に、赤ちゃん保持部材100の延長部105から延びるベルト部材107の先端に設けられるオス型バックル109を連結させる。なお、ベルト部材107のずれを防止するために、ループ213にベルト部材107を通過させる。

【0108】また、使用者装着部材200の肩ベルト210に設けられた2個の係合ボタン210cに、赤ちゃん保持部材100のヘッドサポート120に設けられた2個の係合ボタン126を嵌め合わせる。このとき、赤ちゃん保持部材100のヘッドサポート120から延びるベルト122は使用しないため、あらかじめ空間120Aに収納しておく。なお、ベルト部材106のずれを防止するために、ループ212にベルト部材107を通過させる。

【0109】また、使用者装着部材200の肩ベルト210に設けられたメス型バックル214に、赤ちゃん保持部材100の延長部104から延びるベルト部材106の先端に設けられるオス型バックル108を連結させる。

【0110】さらに、図示していないが、赤ちゃん保持部材100に設けられたファスナーレル133と、使用者装着部材200の使用者用背中パッド部材201に設けられたファスナーレール219とをファスナ133Aを用いて結合させる。なお、ファスナ133Aの移動を防止するために、ファスナ133Aに設けられた係合ボタン133Bと、ファスナカバー218に設けられた係合ボタン218aとを嵌め合わせる。

【0111】なお、肩ベルト211側における2個の係合ボタン211cと2個の係合ボタン126、および肩ベルト210側における2個の係合ボタン210cと2個の係合ボタン126とにより、背面縦抱上部連結手段を構成し、肩ベルト211側におけるメス型バックル215とオス型バックル109、および肩ベルト210側におけるメス型バックル214とオス型バックル108により、背面縦抱中間部連結手段を構成し、ファスナーレル133、ファスナーレール219、およびファスナ133Aにより前面縦抱下端部連結手段を構成する。

【0112】また、赤ちゃん2000の下腹部を保護するために、腹部保持部材113に設けられたベルト115に取付けられたフック部材117を、耳状部材119

Aに設けられたリング状部材132に係合させる。図示していないが、ベルト115の反対側に設けられたフック部材116についても、同様に耳状部材119Bに設けられたリング状部材131に係合させる。なお、赤ちゃん2000の下腹部の移動を防止するために、使用者装着部材200に設けられたループ220, 221にベルト115を通過させる。

【0113】この縦抱き状態においては、赤ちゃん2000の頭部側を2点で支持し、赤ちゃん2000の腹部側面を2点で支持し、さらに赤ちゃん2000の股部を1点で支持する5点支持構造を採用していることから、赤ちゃん2000の縦抱き状態を安定させることができになる。また、赤ちゃん2000の頭部側面に、ヘッドサポート120, 121が配設されることから、赤ちゃん2000の頭部の振れを防止し、赤ちゃんの頭部および頸椎領域の保護を図ることが可能になる。

【0114】なお、赤ちゃん2000が成長して首および腰が座り、赤ちゃん2000を自立させておくことに対して医学的な問題が生じない場合は、図5に示すように、背中部保持部材118を赤ちゃん保持部材100から取外すことにより、赤ちゃん2000を後向きにして縦抱っこをすることが可能になる。

【0115】また、赤ちゃん保持部材100に設けられたベルト部材121, 122、オス型バックル124, 125、および帯状支持部材128は、この使用形態では用いることがないため、空間120A、121A、101Aにそれぞれ収納しておくことで、誤使用を防ぐとともに、意匠上の観点からもすっきりした印象を与えることができる。

【0116】以上、本実施の形態における子守帶1においては、子守帶1の使用に際して、横抱き状態、前面縦抱き状態および背面縦抱き状態での使用が可能となるため、子守帶1の使用に際して、新生児期からの使用が可能になる。

【0117】なお、上記赤ちゃん保持部材100の股間部保持部材110に、上述したように、曲面領域111a, 111bを設けるとともに、赤ちゃん保持部材100と使用者装着部材200とを連結する各ベルトの長さを調節可能とすることで、上述したように、前面縦抱き状態および背面縦抱き状態において、赤ちゃん保持部材100を使用者装着部材200に装着した状態のままで、赤ちゃん1000を前向きまたは後向きに保持することが可能になる。

【0118】なお、上記実施の形態の他の形態として、強度上の観点から、赤ちゃん保持部材100に設けられる、ベルト106, 107を下方領域まで延長させて、股間部保持部材110の領域で交差させる構造が考えられる（図6参照）。しかし、股間部保持部材110の領域でベルト106, 107を交差させた場合には、交差部が盛り上がり赤ちゃん2000に不快感を与えるおそ

れがある。このような場合には、図16に示すように、ベルト106, 107を股間部保持部材110の曲面領域111a, 111bに沿って配置することにより、強度の向上が図れるとともに、赤ちゃん2000への不快感を解消することが可能となる。

【0119】また、上記実施の形態においては、赤ちゃん2000の抱っこ状態をより安定的に実現するために腰ベルト300を設けるようにしたが、肩ベルトのみで十分赤ちゃん2000の体重を支持できる場合は、必ずしも腰ベルト300を設ける必要はない。また、肩ベルトについても、左右1対となるように設けているが、たとえば肩ベルトを1本のたすき掛けのように形成することも可能である。

【0120】連結部分において、オス型バックル、メス型バックルを使用しているが、両者を入れ換えて使用することも可能である。また、オスメス両性のバックルを使用することも可能である。

【0121】また、上記実施の形態における使用者として、お母さんの場合について説明したが、その他お父さんや、他の保護者や保育者であっても構わない。また、特にお父さんにあっては、子守帶の装着を容姿から嫌がる場合もあるが、たとえば、図17に示すように、使用者装着部材200の機能を腕部を通す環状領域を備え、前身ごろおよび後身ごろを有する洋服に組み込む構成にすることにより、ファッショナビティを高めることで、お父さんには、違和感なく装着することが可能になり、父親と子供とのスキンシップを向上させることができなる。

【0122】したがって、今回開示した上記実施の形態はすべての点で例示であって、限定的な解釈の根拠となるものではない。したがって、本発明の技術的範囲は、上記した実施の形態のみによって解釈されるのではなく、特許請求の範囲の記載に基づいて画定される。また、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれる。

【0123】

【発明の効果】この発明に基いた子守帶によれば、子守帶の使用に際して、横抱き状態、前面縦抱き状態および背面縦抱き状態での使用が可能となるため、子守帶の使用に際して、新生児期から一貫した使用が可能になり、親と子供のスキンシップを十分図ることが可能になる。

【0124】また、子守部材として衣服形態を備えることにより、子守部材のファッショナビティの向上が図られ、子守部材の装着時における違和感を軽減することが可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明に基いた実施の形態における子守帶1を用いて、お母さん1000の前面において、赤ちゃん2000を横抱きすることができる状態を示す図である。

【図2】 この発明に基いた実施の形態における子守帯1を用いて、お母さん1000の前面において、赤ちゃん2000を縦抱きすることができる状態を示す第1の図である。

【図3】 この発明に基いた実施の形態における子守帯1を用いて、お母さん1000の前面において、赤ちゃん2000を横抱きすることができる状態を示す第2の図である。

【図4】 この発明に基いた実施の形態における子守帯1を用いて、お母さん1000の背面において、赤ちゃん2000を縦抱きすることができる状態を示す第1の図である。

【図5】 この発明に基いた実施の形態における子守帯1を用いて、お母さん1000の背面において、赤ちゃん2000を横抱きすることができる状態を示す第2の図である。

【図6】 赤ちゃん保持部材100を内面側から見た平面図である。

【図7】 赤ちゃん保持部材100を外面側から見た背面図である。

【図8】 図6中VIII-VIII線矢視にしたがつた第1断面図である。

【図9】 図6中VIII-VIII線矢視にしたがつた第2断面図である。

【図10】 使用者装着部材200を開いた状態での正面図である。

【図11】 使用者装着部材200を開いた状態での背面図である。

【図12】 使用者装着部材200を閉じた状態での正面図である。

【図13】 図11中のXIII-XIII線矢視における第1断面図である。

【図14】 図11中のXIII-XIII線矢視における第2断面図である。

【図15】 図11中XV-XV線矢視における断面図である。

【図16】 他の形態における赤ちゃん保持部材100*

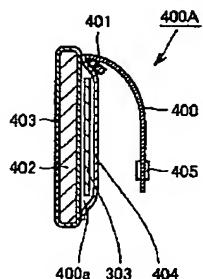
*を内面側から見た平面図である。

【図17】 他の形態における子守帯1を用いて、お母さん1000の前面において、赤ちゃん2000を横抱きすることができる状態を示す図である。

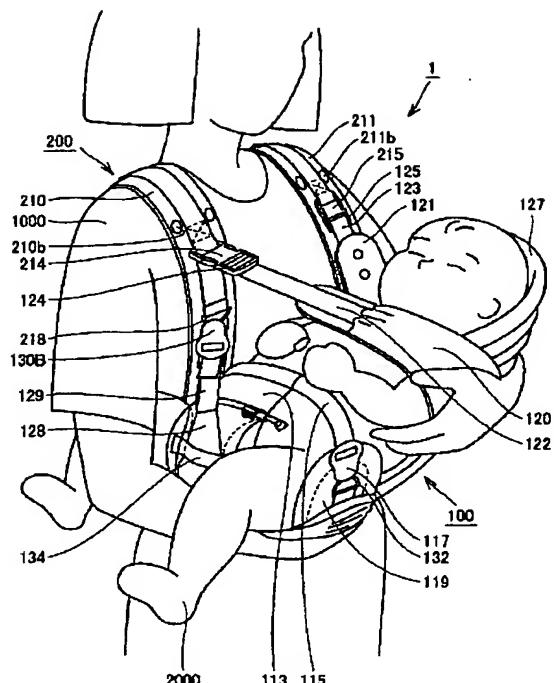
【符合の説明】

1 子守帯、100 赤ちゃん保持部材、101 背面保持部材、101A, 102A, 103A, 128a, 400a 空間、101a, 102a, 103a 袋状部材、102, 103 側部保持部材、104, 105 延長部、106, 107 ベルト部材、108, 109, 124, 125, 305 オス型バックル、110 股間部保持部材、111, 112 補助パッド部材、111a, 111b 曲面領域、113 腹部保持部材、114 貫通路、115, 122, 123 ベルト、116, 117 フック部材、118 背中部保持部材、118b, 118c 赤ちゃん用パッド部材、119A, 119B 耳状部材、120, 121 ヘッドサポート、120B 袋状部材、121A 空間、121B 袋状部材、126, 133B, 210b, 210c, 211b, 211c, 218a, 405a 係合ボタン、127 頭部保護パッド、128 帯状支持部材、129 ベルト、130B フック部材、131, 132 リング状部材、133, 219, 401 ファスナーレール、133A ファスナ、134ループ、135, 136 面ファスナ、200 使用者装着部材、201 使用者用背中パッド部材、201a, 301a, 402 芯材、201b クッション部材、202, 203 パッド部材、210, 211 肩ベルト、210A, 211A, 303 補強ベルト、212, 213, 218, 219, 220, 221 ループ、214, 215 メス型バックル、216 長さ調節用リング、217 長さ調節用リング、218, 400 ファスナカバー、300 腰ベルト、301 中央領域、301b クッション部材、302A, 302B 側部領域、309 連結部材、310 袋状ガイド部材、400A 補強パッド、403 クッション部材、404 ループ部材、1000 お母さん、2000赤ちゃん。

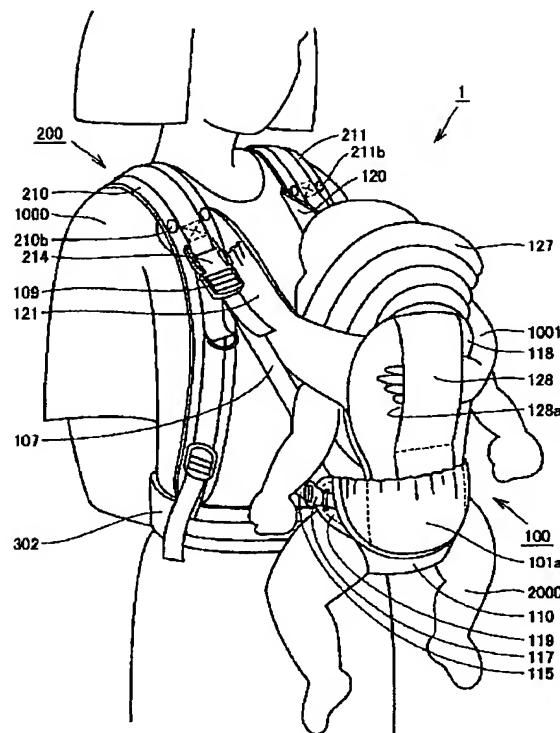
【図15】



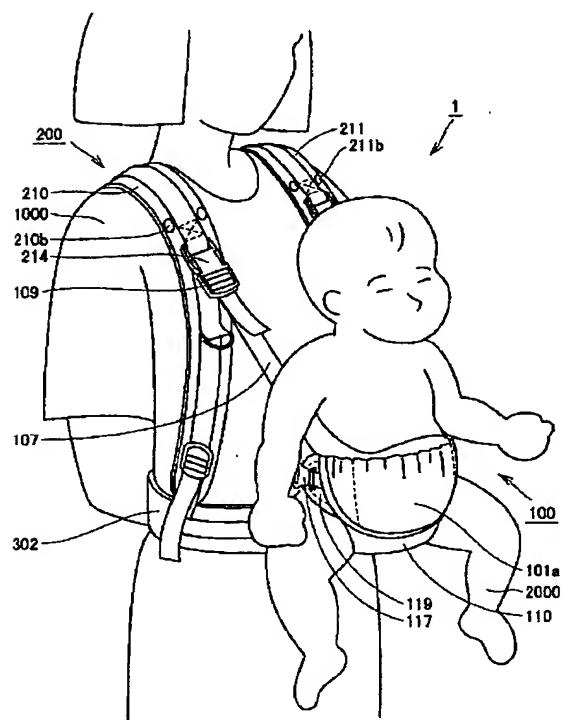
【図1】



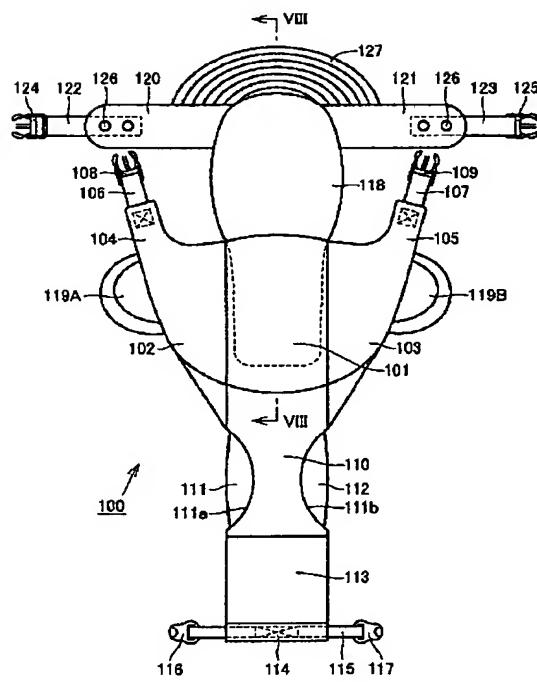
【図2】



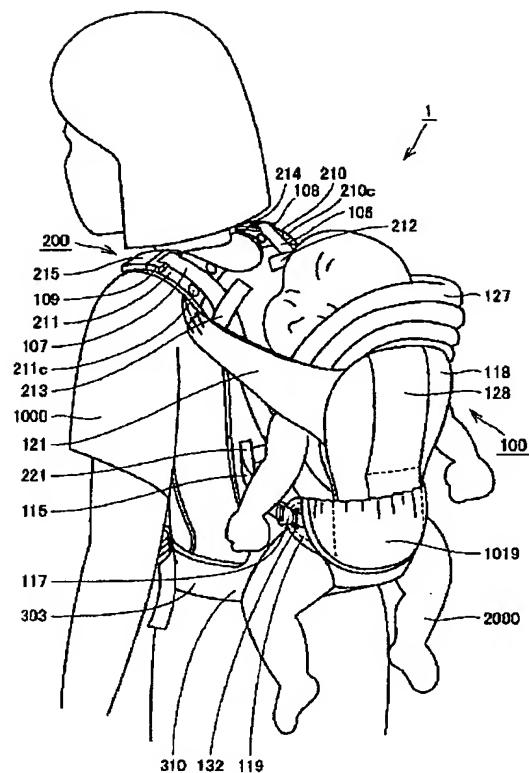
【図3】



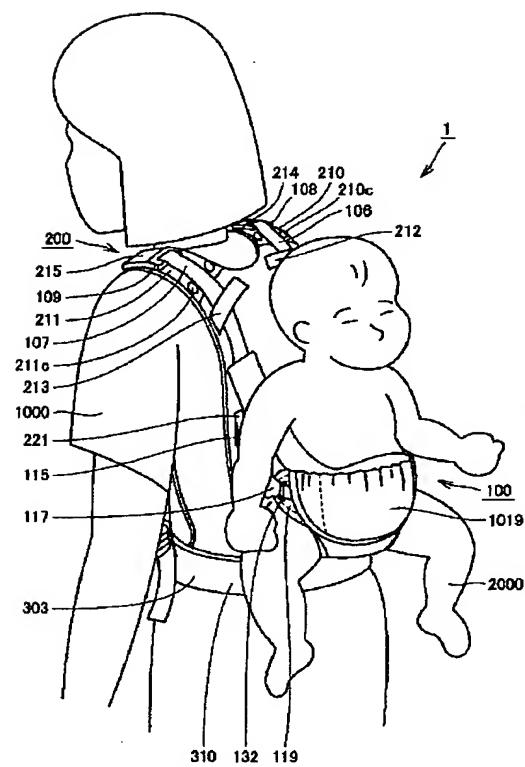
【図6】



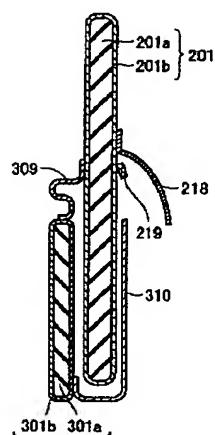
【図4】



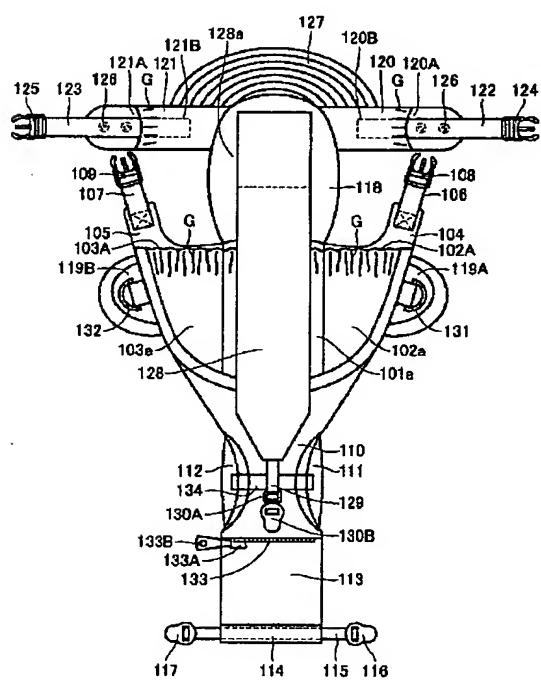
【図5】



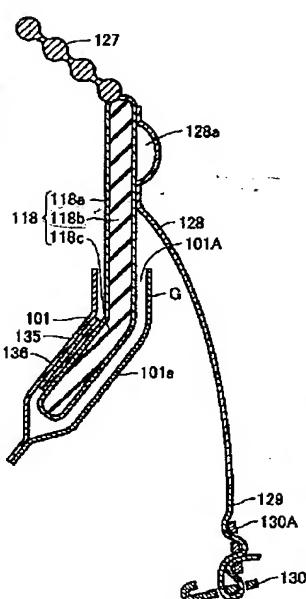
【図13】



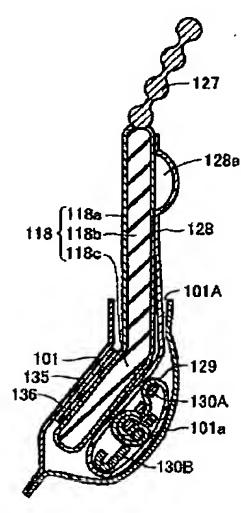
【図7】



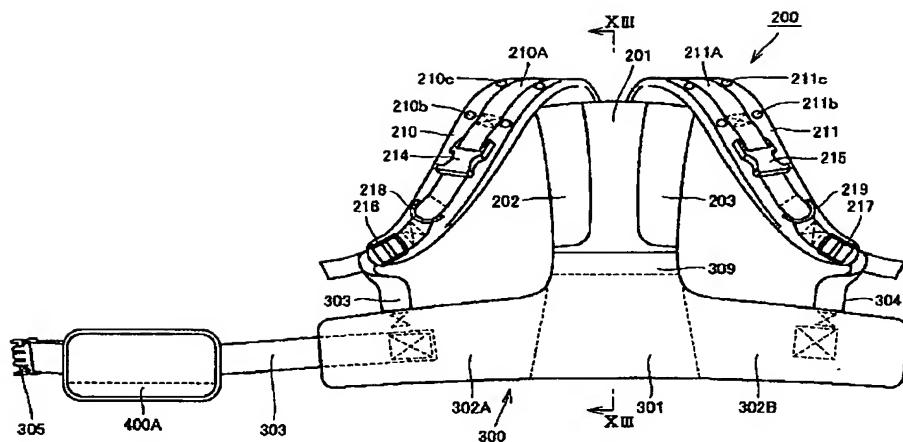
【図8】



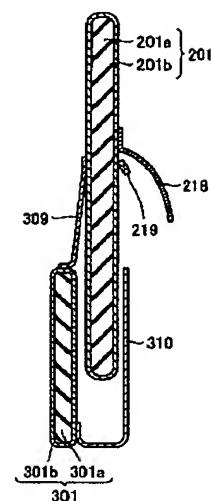
【図9】



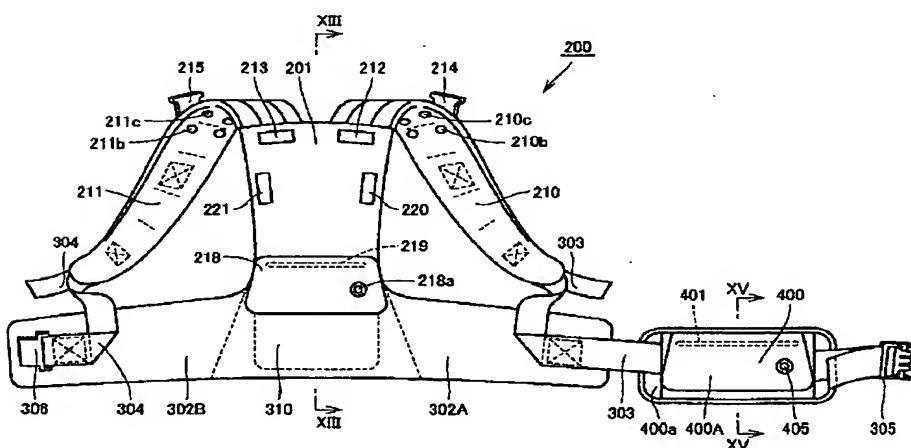
【図10】



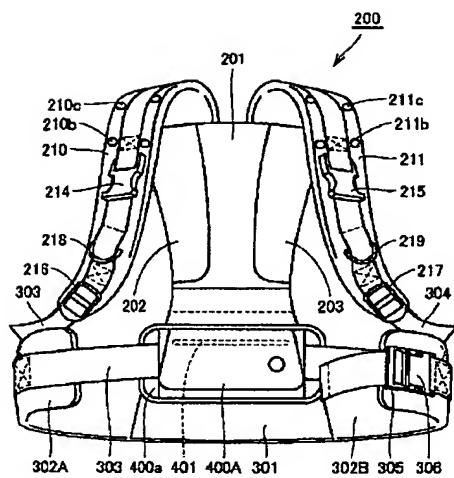
【図14】



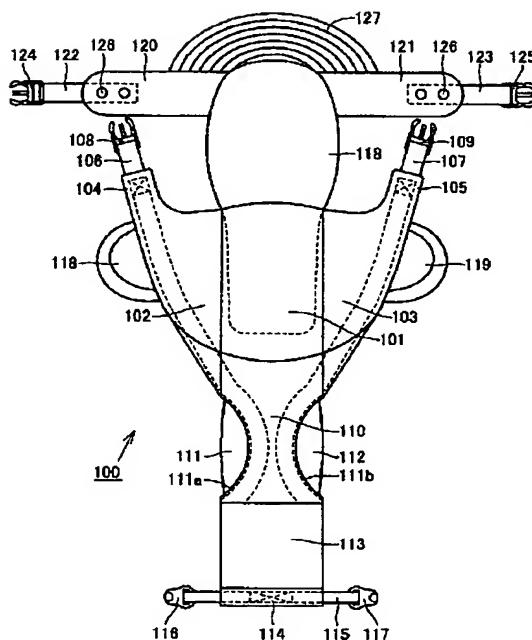
【図11】



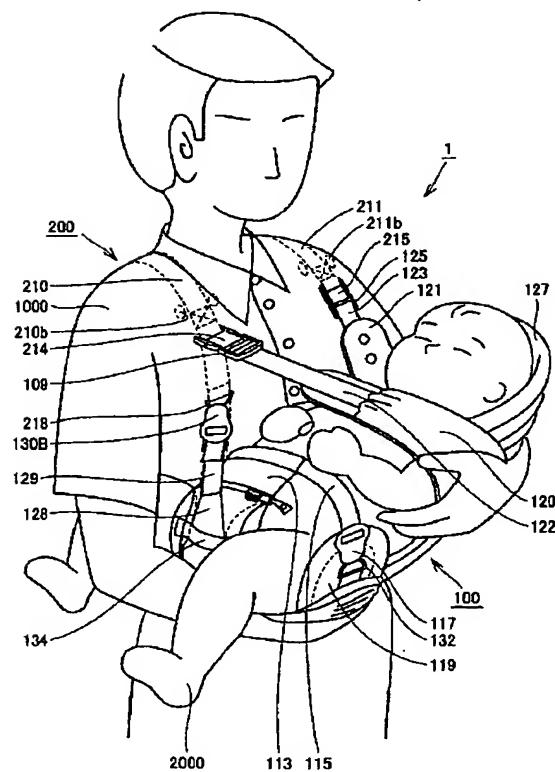
【図12】



【図16】



【図17】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.